

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
分担研究報告書

福岡県におけるウイルス性肝疾患の診療に関するアンケート調査結果

研究分担者：鳥村 拓司 久留米大学医学部内科学講座 消化器内科部門 教授
研究協力者：井出 達也 久留米大学医療センター 准教授

研究要旨：【背景】近年、C型・B型肝炎の抗ウイルス治療がめざましく進歩している。しかし、未だ治療を受けずに肝硬変、肝臓に進展している例が問題となっており、非肝臓専門医におけるウイルス性肝炎患者の診療に関してアンケート調査を行った。【方法】福岡県下の非肝臓専門医を対象にアンケートを郵送し、FAXにて回答を得た。【結果】2,795施設にアンケートを送付し、721施設から回答を得た。うち62% (449) の施設にウイルス肝炎の患者が通院していた。通院人数は、C型肝炎は6-10人が34%、B型肝炎は0-5人が69%の施設で最も多かった。専門医療機関と連携してフォローアップや治療方針を決定している施設は80-90%と高かった。ウイルス性肝炎患者を専門医療機関に紹介しない理由として、「患者が断るから」が最も多く、その理由として、高齢、多忙、希望なし、症状なし、費用、過去に辛い治療などがあった。また予後には影響しないので紹介不要と考える理由に認知症、高齢、肝機能正常があった。肝機能に関しては、ALT値40 IU/L未満を正常値と考える医師も約20%存在した。【結語】非専門医の施設にもウイルス性肝炎患者は通院していた。専門医療機関と連携が取れている一方で、患者が専門医への紹介を断ったときに説明不足があると考えられた。また肝機能が正常であると専門医への紹介は不要と考えている医師も多く、福岡県医師会も推奨するALT値の基準値は30 IU/L未満であることを啓蒙する必要があると考えられた。

A. 研究目的

近年、C型肝炎、B型肝炎の抗ウイルス治療はめざましく進歩しており、ほぼウイルスのコントロールが行えるようになってきた。しかし、肝炎以外の疾患で通院しているにもかかわらず、未だウイルス肝炎の治療は受けずに肝硬変、肝臓に進展し、その後紹介される例が散見される。肝機能正常で、ウイルス検査を行う機会がなかった例は、看過されても仕方ない症例が存在す

るかもしれないが、ウイルス性肝炎が陽性であっても、適切な医療や経過観察を怠り、専門医への紹介が無いと遅れる症例が散見される。専門医への紹介がなぜ行われないのか、行わない場合の理由などを解明することを目的に、福岡県における非肝臓専門医を対象にアンケートを行い、実態を把握することとした。

B. 研究方法

福岡県における非肝臓専門医を対象とした。主に 100 床以下の有床病院と無床のクリニックや医院で、すべての診療科を対象とした。また介護施設、緩和ケア施設は対象外とした。2018 年 12 月にアンケートを郵送し、FAX にて回答を得た。福岡県医師会からは、医師会を通じてアンケートが行われることを周知していただく形で協力を得られた。

(倫理面への配慮)

医師向けのアンケートであり、患者に影響が直接及ぶものではないため、倫理面への問題はないと判断した。

C. 研究結果

アンケート内容を示す。2 ページ、計 12 問である。

提出先：福岡県肝疾患相談支援センター（久留米大学消化器内科医局） 行
FAX：0942-34-2623

該当する選択肢の□にチェックを入れるか、ご記入ください。(いずれも複数回答可)

Q1. 診療科目は何ですか？

【内科系】 ☐ 一般内科 ☐ 消化器内科 ☐ 呼吸器内科 ☐ 循環器内科 ☐ 腎臓内科
☐ 糖尿病内科 ☐ 内分泌内科 ☐ 人工透析 ☐ 漢方内科 ☐ その他 ()
【外科系】 ☐ 外科 ☐ 呼吸器外科 ☐ 心臓血管外科 ☐ 消化器外科 ☐ その他 ()
【その他】 ☐ 精神科 ☐ 神経内科 ☐ 麻酔科 ☐ アレルギー科 ☐ リウマチ科
☐ リハビリテーション科 ☐ 放射線科 ☐ その他 ()

Q2. 肝臓専門医がいますか？

☐ 肝臓専門医がいる。 ☐ 肝臓専門医はいない。

Q3. ウイルス性肝炎の患者はいますか？

(できましたらおおよそでかまいませんので現在通院中の患者数もご記入ください)

☐ いる B 型肝炎 → 約 () 人
C 型肝炎 → 約 () 人
☐ いない (→Q6 へ)

Q4. Q3 で「いる」と答えた方に、フォローアップについてお知らせください。

☐ 先生ご自身でフォローアップ（採血、画像診断など）を行う。
☐ 専門医療機関へ紹介、相談や共診をしている。
☐ 患者の希望を優先させる。(ex 専門医に紹介しようとしたが患者が断った)
☐ その他 ()

Q5. Q3 で「いる」と答えた方に、治療方針などはどのようにしていますか？

☐ 先生ご自身で治療方針を判断後、治療を行った (ている)。
☐ 専門医療機関へ紹介後、ご自身で治療を行った。
☐ 専門医療機関へ紹介し、治療を依頼した。
☐ その他 ()

Q6. 肝炎ウイルスに感染した患者さんを診察した場合、専門医療機関へ紹介されていますか。

☐ 必ず紹介する。 ☐ 症例や場合によって紹介する。 ☐ 紹介しない。

Q7. 肝炎ウイルスに感染しているにもかかわらず、専門医療機関に紹介しない例がある場合、その理由について教えてください。

☐ 患者さんが断るから (断られる理由をご記載ください) ()
☐ 紹介先がわからないから ☐ 自院で対応できるから
☐ 紹介状を書く時間がないから ☐ 治らないと思うから (次ページへつづく)
☐ 治療が不要だと思うから
☐ その他 ()

Q8. 肝炎ウイルスに感染した患者さんが何歳以下であれば、専門医療機関へ紹介しようとお考えになりますか。

☐ 60 歳まで ☐ 70 歳まで ☐ 75 歳まで ☐ 80 歳まで ☐ 85 歳まで
☐ 90 歳まで ☐ 年齢にかかわらず紹介する ☐ その他 ()

Q9. 一般に、先生ご自身が、「予後には影響しないので治療または専門医への紹介は不要」と考えられるのはどのような患者さんでしょうか。(複数回答可)

☐ 肝機能正常 (ALT の正常値はいくつで判定されますか ☐ <20 ☐ <30 ☐ <40)
☐ 先生が高齢者と考える患者 ☐ 施設入居者 ☐ 認知症患者 ☐ アルコール依存症
☐ 難治性の他の疾患 ☐ 強力ネオミノファージン C やワルソネドキシコール酸で十分だと思える患者 ☐ その他 ()

Q10. B および C 型肝炎ウイルスを検査した場合、たとえ陰性であっても患者に説明の必要があることをご存知ですか。(ex 手術前医学管理科は陰性であっても文書で説明必要)

☐ 知っている。 ☐ 知らない。

Q11. 肝炎の抗ウイルス薬治療が肝炎治療医療費助成制度の対象となっていることを知っていますか？

☐ 知っている。 ☐ 知らない。 ☐ 制度自体知らない。

Q12. 肝疾患についての不安や疑問を持っている方への相談窓口として、久留米大学病院に「福岡県肝疾患相談支援センター」が設置 (平成 22 年 4 月) されていますが、知っていましたか？

☐ 知っている (患者に案内したことがある)。
☐ 知っている (患者に案内したことはない)。
☐ 知らない。

Q13. 肝炎撲滅のために、なにかアイデアがあればお書きください。

ご協力いただき、ありがとうございます。

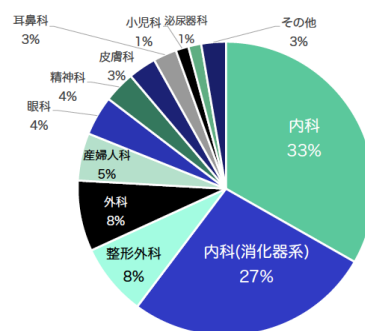
回答内容については、当センターにて厳重に保管し、解析させていただきます。解析結果は、肝疾患診療連携拠点病院会議、学会、研究会、講演会で公表させていただきます可能性がありますが、具体的な医療機関名を公表、漏洩することは一切致しません。

できる限り多くの回答を得るために、未回答の医療機関には、あらためて回答をお願いさせていただきますことと存じます。そのため、ご回答された先生のお名前、医療機関名を是非ご記載ください。2019 年 1 月 10 日までに FAX にてご返事いただきますと幸いです。

ご回答された先生 () 医療機関名 ()

2,795 施設にアンケートを送付し、784 施設 (28.1%) から回答を得て、内訳は内科系が最も多かった。

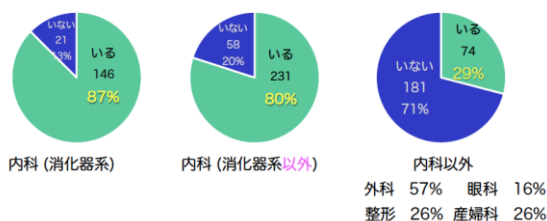
送付機関：2795 機関 → 回答：784 機関 (28.1%)



回答を得た 784 施設のうち、偶然肝臓専門医がいた 63 施設を除き、721 施設で以下の解析を行った。

ウイルス肝炎の患者さんはいますか？という問いでは、62% (449 施設) がいると答えた。さらに、科別に検討すると消化器内科系の施設が最もいる (80%) と答えた。

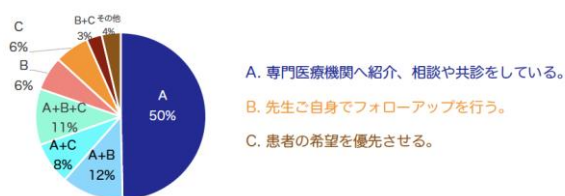
Q3. ウイルス肝炎の患者さんはいますか。 全体では **62%**



ウイルス肝炎患者がいると答えた施設に、通院人数を尋ねると、C型肝炎は0-5人が32%、6-10人が34%、B型肝炎は0-5人が69%、6-10人が20%であった。

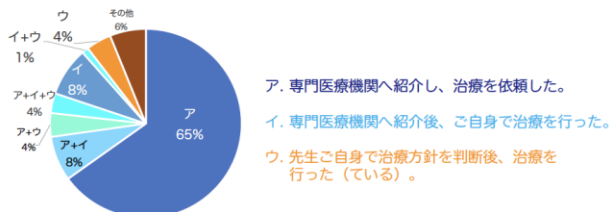
肝疾患専門医療機関と連携しているかを尋ねるために、フォローアップについてお知らせくださいという問いには、約80%で専門医療機関と連携していた。

Q4. フォローアップについてお知らせください。 443機関



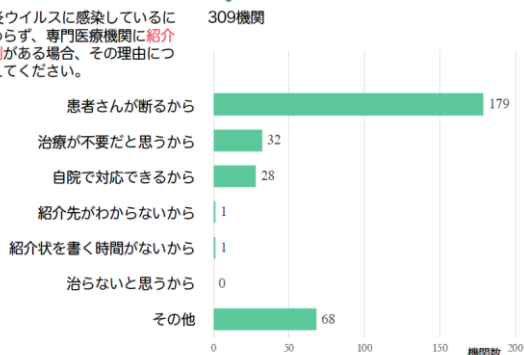
また治療方針等はどうしていますかという問いには、約90%の施設で専門医療機関と連携していた。

治療方針等はどうしていますか。 444機関



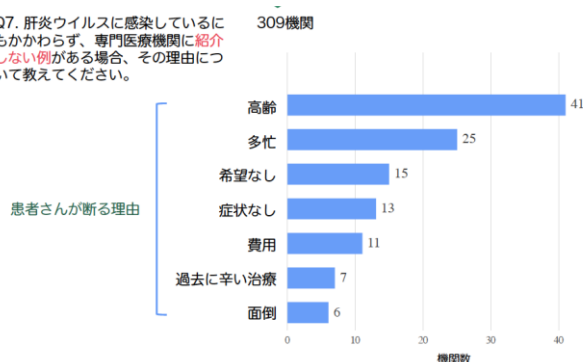
次にウイルス肝炎患者を専門医療機関に紹介しない理由を尋ねると「患者が断るから」が最も多かった。

Q7. 肝炎ウイルスに感染しているにもかかわらず、専門医療機関に紹介しない例がある場合、その理由について教えてください。



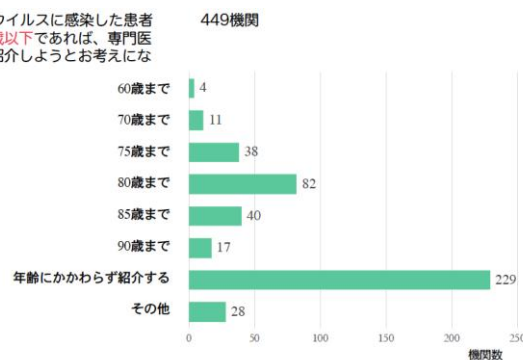
さらに、患者が断る理由として、高齢、多忙、希望なし、症状なし、費用、過去に辛い治療、などがあつた。

Q7. 肝炎ウイルスに感染しているにもかかわらず、専門医療機関に紹介しない例がある場合、その理由について教えてください。



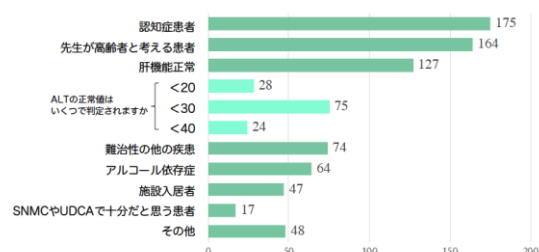
次に、肝炎ウイルスに感染した患者が何歳以下であれば、専門医療機関へ紹介しようとお考えになりますかという問いには、年齢にかかわらず紹介するが最も多かったが、80歳までと答えた施設も多かった。

Q8. 肝炎ウイルスに感染した患者さんが何歳以下であれば、専門医療機関へ紹介しようとお考えになりますか。



また予後には影響しないので紹介不要と考える理由に認知症、高齢、肝機能正常があつた。ALT値の基準値を尋ねると30IU/L未満が多かったが、40IU/L未満と答えた施設も約20%あつた。

Q9. 一般に、先生ご自身が、「予後には影響しないので治療または専門医への紹介は不要」と考えられるのはどのような患者さんでしょうか。(複数回答で算出)



D. 考察

今回のアンケートの結果、非専門医の施設においても過半数（62%）の施設においてウイルス性肝炎患者は通院しており、非専門医にとっても決してまれな疾患ではないことが判明した。次に、フォローアップや治療方針の決定に専門医療機関との連携は、80-90%の施設で行われていることが判明した。多くの施設で連携が行われていたが、このアンケートに回答をいただいている施設は、もともと連携を取っているような施設が多いことも推測された。また連携を取れている一方、患者を専門医へ紹介しない場合の理由として、患者が断るという理由が多かった。断る理由として、高齢であることは、ある程度仕方ないかもしれないが、多忙、希望なし、症状なし、費用、過去に辛い治療などの理由は患者に断られても医師がうまく説明すれば、治療に結びつけることができると考えられる。更なる医師への啓蒙が必要と考えられた。

年齢に関しては、年齢にかかわらず肝臓専門医を紹介するという答えが最も多かったので問題ないが、80歳までという回答もあり、C型肝炎では、80歳以上の肝発癌が増加している状況を見ると単純な年齢区

分は慎重に考える必要があると思われる。

また専門医への紹介が不要と考える理由に認知症、高齢があり、これらは問題ないと思われるが、肝機能正常も紹介不要の理由として多く、ALT 値が 30IU/L 未満でも多くの症例に肝内では炎症や線維化があること、ALT 値の基準は福岡県医師会も推奨する 30IU/L 未満が妥当であることなどを啓発して行く必要があると思われた。

E. 結論

非専門医の施設にも肝炎患者は通院していた。専門医療機関と連携が取れている一方で、患者が専門医への紹介を断ったときに説明不足があると考えられた。また肝機能正常であると紹介は不要と考えており、ALT基準値の見直しや肝炎知識の更なる普及が必要と考えられた。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

G. 知的所有権の出願・取得状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

特になし